# 平成26年度

松山市 市民意識調査

報 告 書 (概 要 版)

平成 27 年 3 月



## 目 次

Ι	訓	調査概要				2
	1.	. 調査目的				2
	2.	. 調査方法				2
		(1)調査項目				2
		(2)調査対象・方法				2
	3.	. 回収状況				2
	4.	集計方法				3
	5.	. 注意事項				3
Π	訓	調査結果				4
	1.	. 回答者について				4
		(1)性別				4
		(2)年齢				4
		(3)職業				5
		(4)居住地				6
		(5)家族構成				7
		(6)居住年数				8
	2.	. 松山市での暮らしなどについて				9
		(1)松山市は住みやすいまちか				9
		(2)今後も松山市に住み続けたいか				10
		(3)松山市でも将来の人口が減少すると予想されることを知っていた	たか			11
		(4)松山市の人口が減少へ向かっていることについてどう思うか				
		(5)人口減少に歯止めをかけるため松山市が取り組んでいくことに	ついてどう	思うか	1	13
		(6)人口減少が与える影響についてどれが深刻だと感じるか				14
		(7)将来人口減少を抑えるための取り組みとして重要だと思うこと				16
	3.	. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について				18
		(1)健康・福祉に関する施策				18
		(2)安全・安心に関する施策				19
		(3)産業・交流に関する施策			2	20
		(4)教育・文化に関する施策			2	21
		(5)環境・都市に関する施策			2	22
		(6)自治・行政に関する施策			2	23
Ш	訓	調査分析			2	24
	1.	. 満足度・重要度			2	24
	2.	. 施策の優先度について			2	26
	3	重要度及び満足度、優先度の関係			9	27

## I 調査概要

### 1. 調査目的

第6次松山市総合計画に掲げた各施策に対する市民の重要度、満足度、優先度等を把握するため、 市民に対して意識調査を実施し、計画的かつ効率的な進行管理を図るための基礎資料とする。

## 2. 調査方法

#### (1)調査項目

- 1. 回答者について
- (1)性別(2)年齢(3)職業(4)居住地域(5)家族構成(5)居住年数
- 2. 松山市での暮らしなどについて
- (1) 松山市は住みやすいまちか
- (2) 今後も松山市に住み続けたいか
- (3) 松山市でも将来の人口が減少すると予想されることを知っていたか
- (4) 松山市の人口が減少へ向かっていることについてどう思うか
- (5) 人口減少に歯止めをかけるため松山市が取り組んでいくことについてどう思うか
- (6) 人口減少が与える影響について深刻だと感じる項目
- (7) 人口減少を抑えるための取り組みとして重要だと思う項目
- 3. 市が取り組んでいる施策の満足度・重要度について
- (1) 健康・福祉に関する施策(2) 安全・安心に関する施策(3) 産業・交流に関する施策
- (4)教育・文化に関する施策(5)環境・都市に関する施策
- (6) 自治・行政に関する施策
- 4. 施策の優先度について

#### (2)調査対象・方法

1. 調査対象

2015年1月1日現在

①性別:男女各1,000人

②年齢:20歳以上の市民

③地域:公民館ブロックの地区ごと

2. 調査方法 郵送調査

3. 調查期間

2015年2月9日~2月26日

## 3. 回収状況

	発送件数	有効回答件数	有効回答率
全体	2,000	1, 204	60.2%

## 4. 集計方法

項目	内容
性別集計	男性、女性で集計。
年齢別集計	20 歳代 (20~29 歳)、30 歳代 (30~39 歳)、40 歳代 (40~49 歳)、
	50 歳代 (50~59 歳)、60 歳代 (60~69 歳)、70 歳以上の 6 区分で集計
地域別	・41 居住地を、8公民館ブロックに集約。
	ブロック 公民館区分
	第1ブロック 1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台
	第2ブロック 5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本
	第3ブロック 11. 八坂 12. 素鵞 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原
	第4ブロック 17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒
	第5ブロック 21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生
	第6ブロック 25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島
	第7ブロック 31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝
	第8ブロック   35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 栗井
満足度得点	・第6次松山市総合計画の施策毎の評価
重要度得点	選択肢1「不満、重要でない」から選択肢5「満足、重要」までに、それぞれ1点
	~5点を与え、加重平均を算出した。選択肢0「判断できない」および「無回答」
	のサンプルは集計対象から除外した。
優先度	・優先的に取り組むべき施策として選択された件数について集計した。
満足度・重要	・施策の満足度・重要度の得点に基づき
度・優先度の	可視化するとともに、優先度が高い施 / C:重要度は低いが、 A:重要度、満足度 横
関係	策との相関を示した。
	高
	<u>普通(3.00)</u>
	D: 重要度、満足度   B: 重要度は高いが、   <sup>(**)</sup>
	(低) ともに低い 満足度は低い
	V 低← 重要度 →高

## <u>5. 注意事項</u>

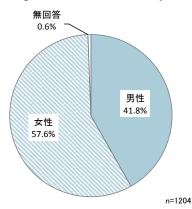
- 〇図表中の「n」(Number of samples の略)は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出するための基数です。
- ○図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、個々の構成比の合計が100.0%にならない場合(99.9%、100.1%など)があります。
- ○複数回答の設問は、回答が2つ以上ありうるので、合計は100%を超えることもあります。
- ○各設問の集計は、無回答を含めて集計しています。

## Ⅱ 調査結果

## 1. 回答者について

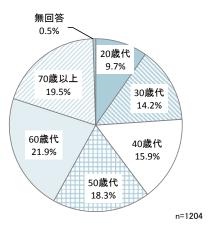
### (1)性別

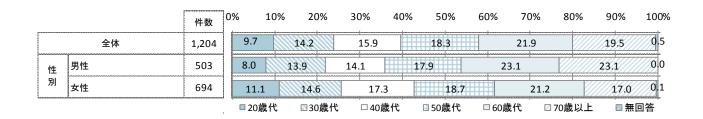
・性別は、「男性」が41.8%、「女性」が57.6%であった。



#### (2)年齡

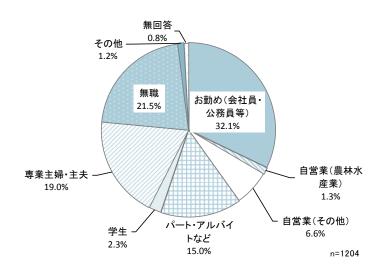
- ・全体では、「60 歳代」が 21.9%で最も高く、「70 歳以上」の 19.5%、「50 歳代」の 18.3%が続いた。
- ・性別でみると、男性では「60歳代」と「70歳以上」がいずれも23.1%で最も高く、「50歳代」の17.9%が続いた。女性では「60歳代」が21.2%で最も高く、「50歳代」の18.7%、「40歳代」の17.3%が続いた。

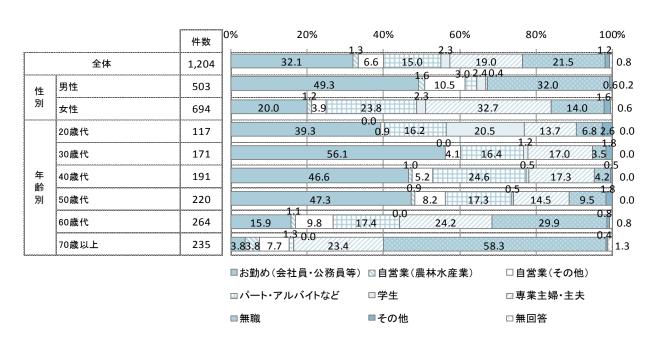




#### (3)職業

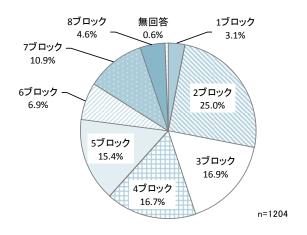
- ・全体では、「お勤め(会社員・公務員等)」が32.1%で最も高く、「無職」の21.5%、「専業主婦・ 主夫」の19.0%が続いた。
- ・性別では、男性では「お勤め(会社員・公務員等)」が49.3%で最も高く、「無職」の32.0%、「自営業(その他)」の10.5%が続いた。女性では「専業主婦・主夫」が32.7%で最も高く、「パート・アルバイトなど」の23.8%、「お勤め(会社員・公務員等)」の20.0%が続いた。
- ・年齢別では、50歳代以下では各年代で「お勤め(会社員・公務員等)」が最も高く、次いで20歳代は「学生」、30歳代は「専業主婦・主夫」、40歳代と50歳代は「パート・アルバイト」が高かった。60歳代と70歳代は「無職」が最も高く、「専業主婦・主夫」が続いた。





#### (4)居住地

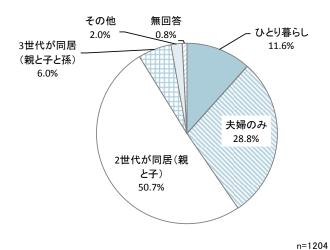
- ・全体では、「第2ブロック」(久米、小野、石井、浮穴、荏原、坂本)の25.0%が最も高く、「第3ブロック」(八坂、素鵞、道後、東雲、番町、桑原)の16.9%、「第4ブロック」(新玉、雄郡、清水、味酒)の16.7%が続いた。
- ・年齢層をみると、いずれの地域も 60 歳代及び 70 歳以上の割合が 4 割弱から 5 割強を占め、「第 8 ブロック」(浅海、立岩、難波、正岡、北条、河野、栗井)では 52.7%と過半数を超える。20 歳代及び 30 歳代は、いずれの地域も 2 割弱から 3 割弱に留まり、「第 4 ブロック」では 19.9% と最も低くなっている。40 歳代及び 50 歳代は「第 8 ブロック」のみ 23.6%に留まったが、そ のほかの地域では 3 割を超えている。



		件数	0%	20%	% 4	10% 60	0%	80%	100%
	第1ブロック	37	10.8	10.8	18.9	18.9	18.9	21.6	0.0
	第2ブロック	301	8.6	16.6	14.3	22.3	24.6	13.6	0.0
	第3ブロック	203	10.3	14.3	16.7	17.2	19.7	21.7	0.0
地域	第4ブロック	201	10.4	9.5	19.4	15.9	21.9	22.9	0.0
別	第5ブロック	186	12.9	15.	1 16.1	15.6	19.9	19.9	0.5
	第6ブロック	83	6.0	16.9	8.4	21.7	21.7	25.3	0.0
	第7ブロック	131	6.9	15.3	18.3	19.1	24.4	16.0	0.0
	第8ブロック	55	12.7	10.9	10.9	12.7 21.	8	30.9	0.0

#### (5)家族構成

- ・全体では、「2世代が同居(親と子)」が50.7%で最も高く、「夫婦のみ」の28.8%が続いた。
- ・性別では、男性・女性ともに「2世代が同居(親と子)」が最も高く、「夫婦のみ」、「ひとり暮 らし」が続いた。
- ・年齢別では、50歳代以下では「2世代が同居(親と子)」がいずれも半数以上を占め最も高く、 20 歳代は「3 世代が同居(親と子と孫)」、30 歳代から 50 歳代は「夫婦のみ」が続いた。60 歳 代と70歳以上は「夫婦のみ」が最も高く、「2世代が同居(親と子)」が続いた。
- ・地域別では、いずれの地域も「2世代が同居(親と子)」が4割から5割台を占め最も高く、「夫 婦のみ」が続いた。



80%

26.0

☑ 無回答

100%

6.0 0.8

5.4 0.0

6.5 2.6 0.7

7.0 0.0

1.0 4.7 0.5

5.5 0.0

5.7 0.4 3.0 1.3

5.0 0.0

5.9 0.0

4.0 0.5

9.1 1.1 0.0

4.8 4.8 1.2

10.9 3.6 0.0

3.8 1.5

13.5 2.7

12.0 3.4 0.0

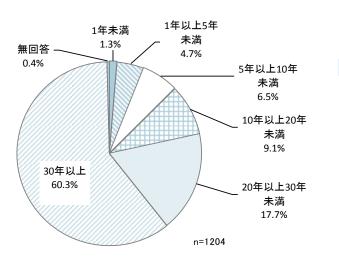
20% 40% 60% 件数 全体 1,204 11.6 28.8 50.7 10.7 35.2 男性 503 47.5 性 女性 12.4 24.5 53.3 11.1 9.4 20歳代 117 64.1 30歳代 16.4 171 72.5 40歳代 7.9 191 14.1 71.7 50歳代 220 10.5 26.4 55.9 60歳代 264 16.3 41.7 34.1 70歳以上 17.4 48.1 第1ブロック 37 8.1 24.3 51.4 第2ブロック 10.0 29.9 53.5 第3ブロック 203 17.2 28.1 46.3 地 第4ブロック 201 16.4 26.9 49.8 域 第5ブロック 186 別 7.0 31.7 51.1 第6ブロック 83 7.2 31.3 50.6 第7ブロック 131 25.2 11.5 57.3 第8ブロック 9.1 32.7 43.6 ■ひとり暮らし ∖対対 □2世代が同居(親と子)

□その他

□3世代が同居(親と子と孫)

#### (6)居住年数

- ・全体では、30年以上が60.3%と最も高く、20年以上30年未満の17.7%、10年以上20年未満 の 9.1%が続き、20 年以上の居住者が 78.0%を占めた。
- ・地域別では、いずれの地域も30年以上が5割を超えて最も高く、20年以上30年未満が続いた。 但し、「第1ブロック」(湯山、日浦、五明、伊台) は20年以上30年未満と10年以上20年未 満が10.8%で同率。特に「第1ブロック」、「第6ブロック」(三津浜、宮前、高浜、泊、由良、 中島)、「第7ブロック」(和気、潮見、堀江、久枝)「第8ブロック」では、通算20年以上の居 住者が8割を超えている。





№1年以上5年未満

□5年以上10年未満

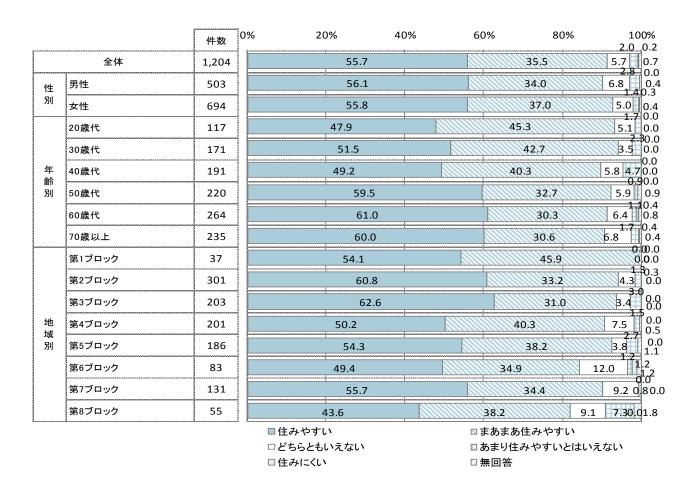
□20年以上30年未満

☑30年以上

## 2. 松山市での暮らしなどについて

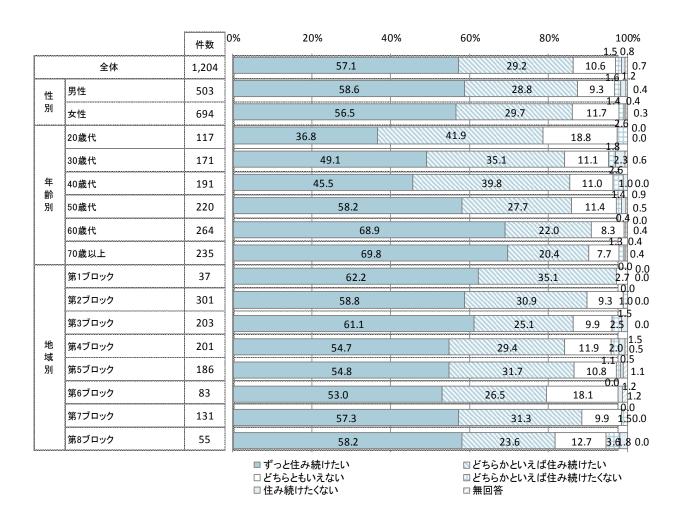
#### (1)松山市は住みやすいまちか

- ・全体では、「住みやすい」が 55.7%で最も高く、次いで「まあまあ住みやすい」が 35.5%と続き、合わせて 91.2%が『住みやすい』と感じている。
- ・性別では、『住みやすい』は男性90.1%、女性92.8%で、いずれも9割を超えている。
- ・年齢別では、40歳代を除き、『住みやすい』が9割を超えている。40歳代では『住みやすい』 が89.5%と9割をわずかに下回り、「あまり住みやすいとはいえない」が4.7%と比較的高くなっている。
- ・地域別では、第6ブロックと第8ブロックを除き、『住みやすい』が9割を超えている。第6ブロックでは「どちらともいえない」が12.0%、第8ブロックでは「あまり住みやすいとはいえない」が7.3%と、両方の意見が比較的高くなっている。



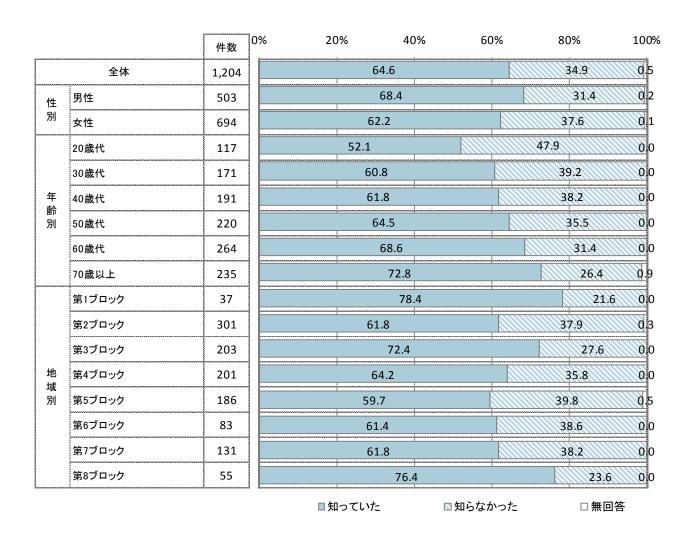
#### (2) 今後も松山市に住み続けたいか

- ・全体では、「ずっと住み続けたい」が 57.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が 29.2%と続き、合わせて 86.3%が『住み続けたい』と感じている。
- ・性別では、『住み続けたい』は男性87.4%、女性86.2%で、いずれも9割弱を占めている。
- ・年齢別では、60歳代、70歳以上では『住み続けたい』がそれぞれ90.9%、90.2%と9割を超え、30歳代から50歳代では『住み続けたい』が8割を超えている。一方、20歳代では78.7%と比較的低くなっている。
- ・地域別では、第6ブロックを除きいずれの地域も『住み続けたい』が8割以上となっており、 第1ブロックでは97.3%と最も高くなっている。第6ブロックは『住み続けたい』が79.5%を 占める一方、「どちらともいえない」が18.1%と比較的高くなっている。



#### (3)松山市でも将来の人口が減少すると予想されることを知っていたか

- ・全体では、「知っていた」が 64.6%、「知らなかった」が 34.9%と、「知っていた」が「知らなかった」を上回っている。
- ・性別では、男性・女性いずれも「知っていた」が「知らなかった」を上回っている。「知っていた」は男性 68.4%、女性 62.2%を占め、男性の方が比較的高くなっている。
- ・年齢別では、いずれの年代も「知っていた」が半数を超え、「知らなかった」を上回っている。 「知っていた」の割合は年齢に比例して高くなっている。
- ・地域別では、いずれの地域も「知っていた」が約6割以上で、「知らなかった」を上回っている。



#### (4)松山市の人口が減少へ向かっていることについてどう思うか

- ・全体では、「問題だと感じる」が 53.2%と最も高く、次いで「深刻な問題だと感じる」が 22.1% と続き、合わせて 75.3%が『問題だと感じる』と回答している。
- ・性別では、「問題だと感じる」は男性 52.7%、女性 53.9%でいずれも最も高く、次いで「深刻な問題だと感じる」が男性 23.5%、女性 21.2%と続き、『問題だと感じる』はともに 7 割を超えている。
- ・年齢別では、いずれの年代も『問題だと感じる』が6割を超え、70歳以上で80.0%と最も高く、年齢が高いほど割合が高くなっている。「あまり問題だと感じない」「問題だと感じない」を合わせた『問題だと感じない』は、30歳代で14.6%、40歳代で12.0%と比較的高くなっている。
- ・地域別では、いずれの地域も『問題だと感じる』が7割を超え、第8ブロックでは83.6%を占めている。第6ブロックでは「どちらともいえない」が19.3%と比較的高くなっている。

		件数	0%	20%	<b>4</b>	0% 6	0%	80%	100%
	全体	1,204	22	.1		53.2		15.0	7.6 0.6
性	男性	503	23	3.5		52.7		13.5	7.8 0.2
別	女性	694	21	.2		53.9		16.3	7.5 0.3
	20歳代	117	16.2			53.0		21.4	7.7 0.0
	30歳代	171	18.7	7		50.9	15	.2	14.0 0.6
年 齢	40歳代	191	16.8			56.5		14.7	9.4 2.6 0.0
別	50歳代	220	20	.9		56.4		15.9	6.4 0.0
	60歳代	264	21	.2		57.6		12.9	6.1 0.8
	70歳以上	235		34.5		45.	5	13.	6 4.3 0.0
	第1ブロック	37	2	4.3		54.1		10.8	8.1 0.0
	第2ブロック	301	18.6	5		57.1		14.6	8.3 0.0
	第3ブロック	203	2	4.1		49.8		15.8	8.4 0.0
地 域	第4ブロック	201	2	5.4		49.8		17.4	6.0 0.5
別	第5ブロック	186	22	2.6		50.5		16.1	9.1 0.0
	第6ブロック	83	19.	3		53.0		19.3	4.8 1.2
	第7ブロック	131	22	2.9		56.5		10.7	8.4 0.8
	第8ブロック	55	2:	3.6		60.0		1	0.9 3.6 0.0
			■深刻な	問題だと	:感じる 『	■問題だと感じる		どちらと	もいえない
			□あまり	問題だと	感じない	□問題は感じない		無回答	

#### (5)人口減少に歯止めをかけるため松山市が取り組んでいくことについてどう思うか

- ・全体では、「取り組むべき」が 48.9%と最も高く、次いで「大いに取り組むべき」が 36.1%と 続き、合わせて 85.0%が『取り組むべき』と回答している。
- ・性別では、男性・女性いずれも『取り組むべき』が8割を超え、女性(86.6%)は男性(83.5%) に比べやや高くなっている。
- ・年齢別では、いずれの年代も『取り組むべき』が8割を超え、20歳代で88.1%と比較的高くなっている。
- ・地域別では、いずれの地域も『取り組むべき』が8割を超え、第1ブロックでは91.9%を占めている。第5ブロック(生石、余土、垣生、味生)では「現状のままでよい」が10.2%と比較的高くなっている。



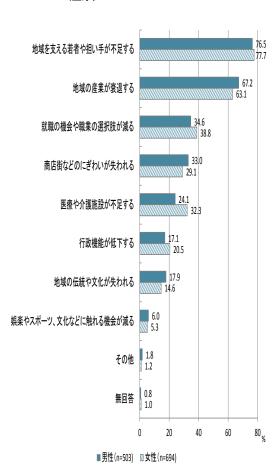
#### (6)人口減少が与える影響についてどれが深刻だと感じるか

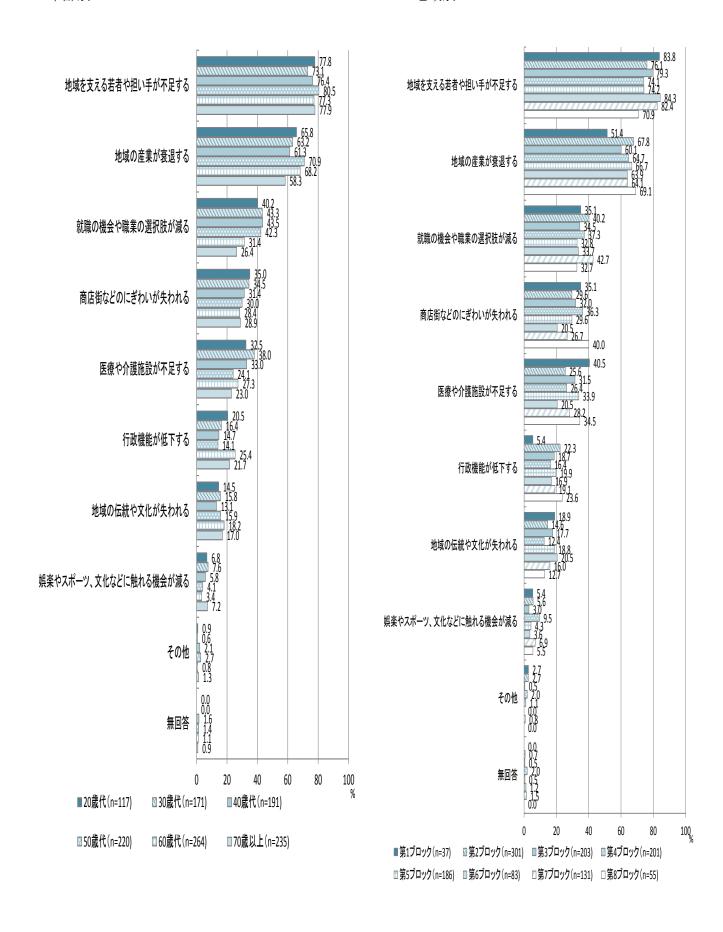
- ・全体では、「地域を支える若者や担い手が不足する」(77.0%)が最も高く、次いで「地域の産業が衰退する」(64.5%)、「就職の機会や職業の選択肢が減る」(36.8%)と続いた。
- ・性別では、男性・女性いずれも「地域を支える若者や担い手が不足する」が7割を超え最も高く、次いで「地域の産業が衰退する」「就職の機会や職業の選択肢が減る」の順で続いた。「医療や介護施設が不足する」は女性(32.3%)が男性(24.1%)に比べ高くなっている。
- ・年齢別では、いずれの年代も「地域を支える若者や担い手が不足する」が最も高く、次いで「地域の産業が衰退する」が続いた。これに次いで、60歳代以下では「就職の機会や職業の選択肢が減る」が続いたが、70歳以上では「商店街などのにぎわいが失われる」が続いた。また、30歳代では「医療や介護施設が不足する」が38.0%と比較的高くなっている。30歳代、40歳代、50歳代では「行政機能が低下する」が2割を下回り、比較的低くなっている。
- ・地域別では、いずれの地域も「地域を支える若者や担い手が不足する」が最も高く、次いで「地域の産業が衰退する」が続いた。これに次いで、第1ブロック、第5ブロック、第8ブロックを除いた地域では「就職の機会や職業の選択肢が減る」が続いた。第1ブロックと第5ブロックでは「医療や介護施設が不足する」が、第8ブロックは「商店街などのにぎわいが失われる」が、それぞれ続いた。

#### <全体>

## 地域を支える若者や担い手が不足する 77.0 地域の産業が衰退する 就職の機会や職業の選択肢が減る 36.8 商店街などのにぎわいが失われる 30.6 医療や介護施設が不足する 28.7 行政機能が低下する 19 0 地域の伝統や文化が失われる 娯楽やスポーツ、文化などに触れる機会が減る 5.6 その他 1.5 無回答 1.2 0 20 40 60 80 n=1204

#### <性別>

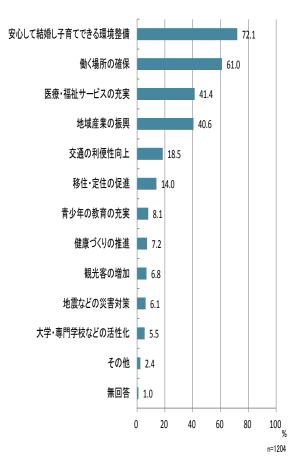


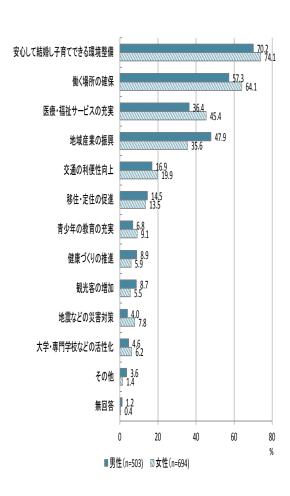


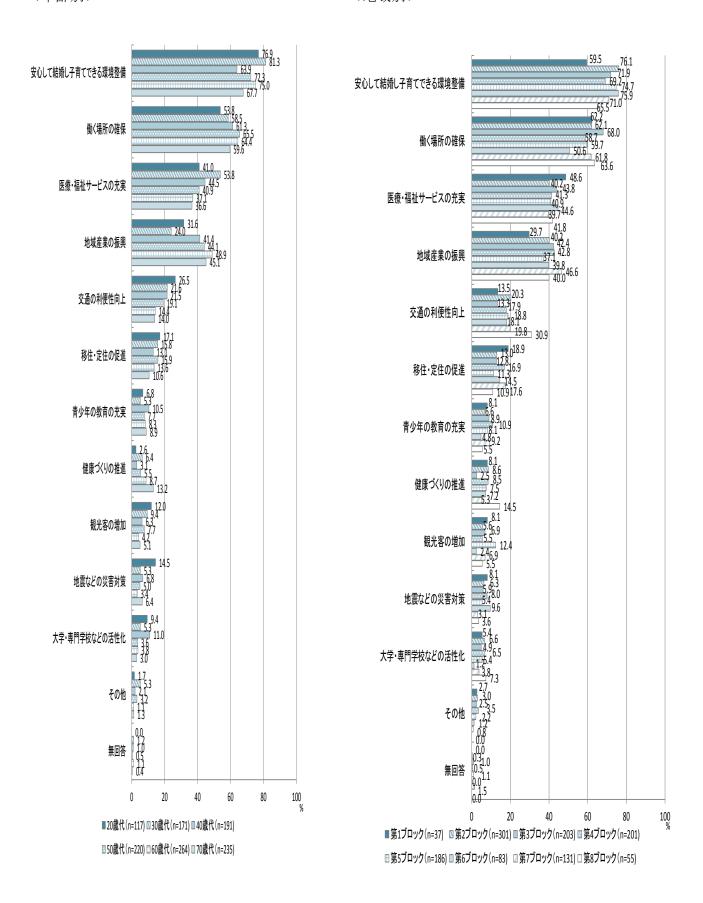
#### (7)将来人口減少を抑えるための取り組みとして重要だと思うこと

- ・全体では、「安心して結婚し、子育てできる環境整備」(72.1%)が最も高く、次いで「働く場所の確保」(61.0%)、「医療・福祉サービスの充実」(41.4%)、「地域産業の振興」(40.6%)と続いた。
- ・性別では、男性・女性いずれも「安心して結婚し、子育てできる環境整備」が7割を超え最も 高く、次いで「働く場所の確保」が続いた。以下、男性では「地域産業の振興」(47.9%)、女 性では「医療・福祉サービスの充実」(45.4%)が続いた。
- ・年齢別では、いずれの年代も「安心して結婚し、子育てできる環境整備」が最も高く、次いで「働く場所の確保」が続いた。以下、20歳代から40歳代では「医療・福祉サービスの充実」、50歳代以上では「地域産業の振興」がそれぞれ続いた。また、「交通の利便性向上」は20歳代から40歳代で2割を超え、50歳代以上に比べて高くなっている。
- ・地域別では、いずれの地域も「安心して結婚し、子育てできる環境整備」と「働く場所の確保」が上位2項目となった。第5ブロックでは「観光客の増加」が12.4%、第7ブロックでは「地域産業の振興」が46.6%、第8ブロックでは「交通の利便性向上」が30.9%と、それぞれ比較的高くなっている。

<全体> <性別>





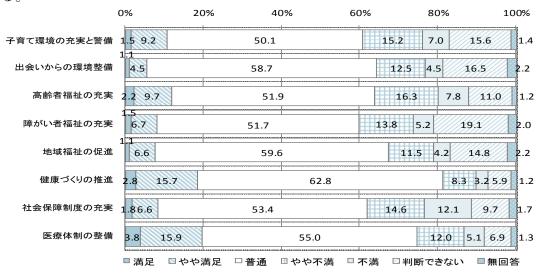


## 3. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について

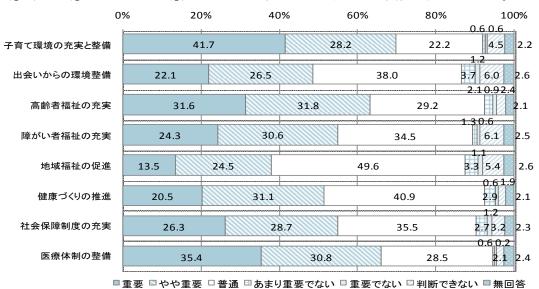
### (1)健康・福祉に関する施策

#### <満足度>

- ・「健康・福祉」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 50%以上 を占めている。
- ・「判断できない」は「障がい者福祉の充実」で19.1%と最も高い。
- ・「満足している」(「満足」+「おおむね満足」)と評価の高い施策の上位3項目は、「医療体制の整備」(19.7%)、「健康づくりの推進」(18.5%)、「高齢者福祉の充実」(11.9%)である。
- ・一方で「不満である」(「不満」+「やや不満」)と評価の低い施策の上位3項目は、「社会保障制度の充実」(26.7%)、「高齢者福祉の充実」(24.1%)、「子育て環境の充実と整備」(22.2%)である。



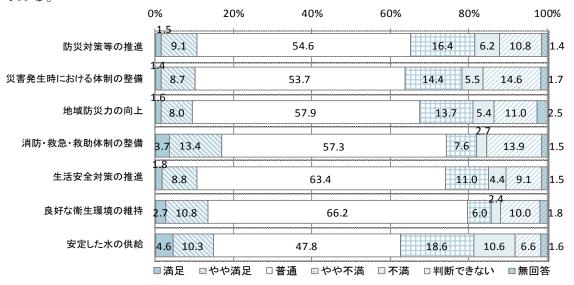
- ・「健康・福祉」に関する施策のうち、「重要」(「重要」+「やや重要」) であると考えられている施策の上位3項目は、「子育て環境の充実と整備」(69.9%)、「医療体制の整備」(66.2%)、「高齢者福祉の充実」(63.4%) である。
- ・また、「出会いからの環境整備」(48.6%)、「地域福祉の促進」(38.0%)以外の全ての項目で、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えている人が過半数を占めている。



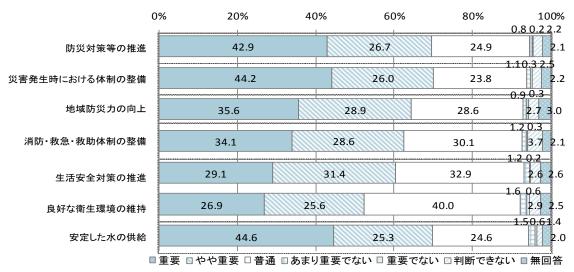
## (2)安全・安心に関する施策

#### <満足度>

- ・「安全・安心」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 40%以上 を占めている。
- ・「判断できない」は「災害発生時における体制の整備」で14.6%と最も高い。
- ・「満足している」(「満足」+「おおむね満足」)と評価の高い施策の上位3項目は、「消防・救急・救助体制の整備」(17.1%)、「安定した水の供給」(14.9%)、「良好な衛生環境の維持」(13.5%)である。
- ・一方で「不満である」(「不満」+「やや不満」)と評価の低い施策の上位3項目は、「安定した水の供給」(29.2%)、「災害発生時における体制の整備」(19.9%)、「地域防災力の向上」(19.1%)である。



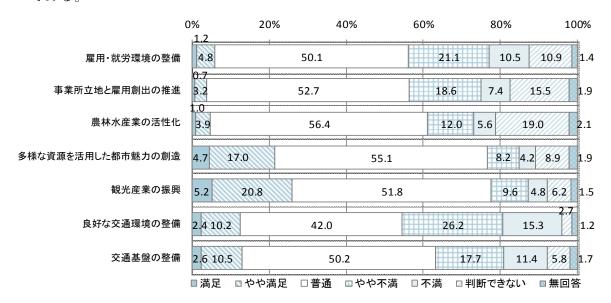
- ・「安全・安心」に関する施策のうち、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えられている施策の上位3項目は、「災害発生時における体制の整備」(70.2%)、「安定した水の供給」(69.9%)、「防災対策等の推進」(69.6%)である。
- ・また、全ての項目で、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えている人が過半数を占めている。



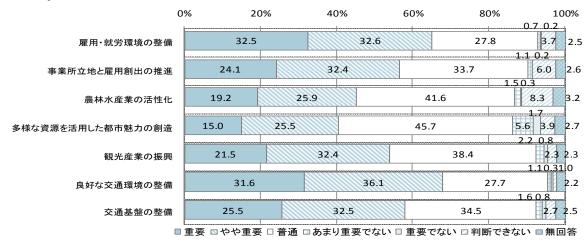
## (3)産業・交流に関する施策

#### <満足度>

- ・「産業・交流」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 40%以上 を占めている。
- ・「判断できない」は「農林水産業の活性化」で19.0%と最も高い。
- ・「満足している」(「満足」+「おおむね満足」)と評価の高い施策の上位3項目は、「観光産業の振興」(26.0%)、「多様な資源を活用した都市魅力の創造」(21.7%)、「交通基盤の整備」(13.1%)である。
- ・一方で「不満である」(「不満」+「やや不満」)と評価の低い施策の上位3項目は、「良好な交通環境の整備」(41.5%)、「雇用・就労環境の整備」(31.6%)、「交通基盤の整備」(29.1%)である。



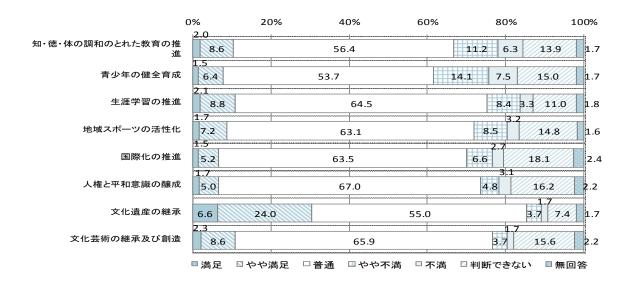
- ・「産業・交流」に関する施策のうち、「重要」(「重要」+「やや重要」) であると考えられている施策の上位3項目は、「良好な交通環境の整備」(67.7%)、「雇用・就労環境の整備」(65.1%)、「交通基盤の整備」(58.0%) である。
- ・また、「農林水産業の活性化」(45.1%)、「多様な資源を活用した都市魅力の創造」(40.5%) 以外の全ての項目で、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えている人が過半数を占め ている。



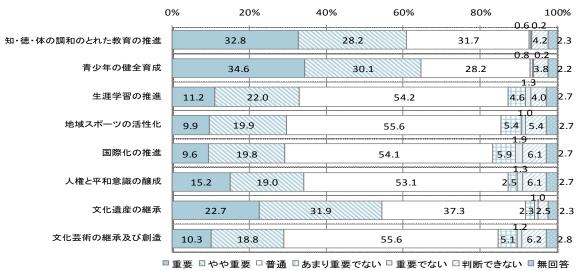
## (4)教育・文化に関する施策

#### <満足度>

- ・「教育・文化」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 50%以上 を占めている。
- ・「判断できない」は「国際化の推進」で18.1%と最も高い。
- ・「満足している」(「満足」+「おおむね満足」)と評価の高い施策の上位3項目は、「文化遺産の継承」(30.6%)、「生涯学習の推進」「文化芸術の継承及び創造」(ともに10.9%)である。
- ・一方で「不満である」(「不満」+「やや不満」)と評価の低い施策の上位3項目は、「青少年の 健全育成」(21.6%)、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」(17.5%)、「生涯学習の推進」 「地域スポーツの活性化」(ともに11.7%)である。



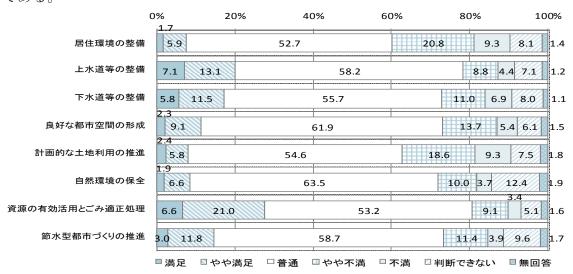
- ・「教育・文化」に関する施策のうち、「重要」(「重要」+「やや重要」) であると考えられている施策の上位3項目は、「青少年の健全育成」(64.7%)、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」(61.0%)、「文化遺産の継承」(54.6%) である。
- ・また、上位3項目を除く全ての項目で、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えている 人が半数を下回っている。



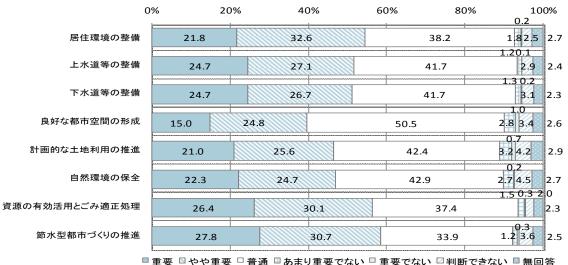
## (5)環境・都市に関する施策

#### <満足度>

- ・「環境・都市」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 50%以上 を占めている。
- 「判断できない」は「自然環境の保全」で12.4%と最も高い。
- ・「満足している」(「満足」+「おおむね満足」)と評価の高い施策の上位3項目は、「資源の有 効活用とごみ適正処理」(27.6%)、「上水道等の整備」(20.2%)、「下水道等の整備」(17.3%) である。
- ・一方で「不満である」(「不満」+「やや不満」)と評価の低い施策の上位3項目は、「居住環境 の整備 | (30.1%)、「計画的な土地利用の推進 | (27.9%)、「良好な都市空間の形成 | (19.1%) である。



- ・「環境・都市」に関する施策のうち、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えられてい る施策の上位3項目は、「節水型都市づくりの推進」(58.5%)、「資源の有効活用とごみ適正 処理」(56.5%)、「居住環境の整備」(54.4%)である。
- ・また、「良好な都市空間の形成」(39.8%)、「自然環境の保全」(47.0%)、「計画的な土地利用 の推進」(46.6%) 以外の全ての項目で、「重要」(「重要」+「やや重要」) であると考えてい る人が過半数を占めている。

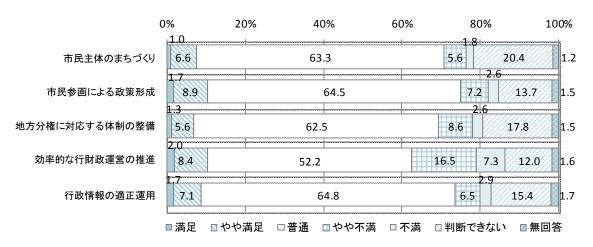


■重要 □やや重要 □普通 □あまり重要でない □重要でない □判断できない □無回答

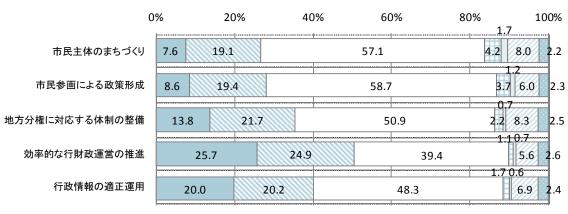
## (6)自治・行政に関する施策

#### <満足度>

- ・「自治・行政」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 50%以上 を占めている。
- 「判断できない」は「市民主体のまちづくり」で20.4%と最も高い。
- ・「満足している」(「満足」+「おおむね満足」)と評価の高い施策の上位3項目は、「市民参画による政策形成」(10.6%)、「効率的な行財政運営の推進」(10.4%)、「行政情報の適正運用」(8.8%)である。
- ・一方で「不満である」(「不満」+「やや不満」)と評価の低い施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」(23.8%)、「地方分権に対応する体制の整備」(11.2%)、「市民参画による政策形成」(9.8%)である。



- ・「自治・行政」に関する施策のうち、「重要」(「重要」+「やや重要」)であると考えられている施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」(50.6%)、「行政情報の適正運用」(40.2%)、「地方分権に対応する体制の整備」(35.5%)である。
- ・また、「効率的な行財政運営の推進」を除いた全ての項目で、「重要」(「重要」+「やや重要」) であると考えている人は半数を下回っている。



■重要 □やや重要 □普通 □あまり重要でない □重要でない □判断できない ■無回答

## Ⅲ 調查分析

### 1. 満足度・重要度

本章では、第6次松山市総合計画の施策毎の満足度・重要度において、回答選択肢1 (不満、重要でない)から回答選択肢5 (満足、重要)まで、それぞれ1点から5点を与え、加重平均を算出した。なお、回答選択肢6「判断できない」及び「不明・無回答」のサンプルは集計対象から除外している。

### 本市が実施している施策毎の評価

①全体集計

#### <満足度>

得点が普通(3.00)を下回り、比較的不満のある施策が多い。

満足度の高い施策は、③【産業・交流】分野(「観光産業の振興」「多様な資源を活用した都市魅力の創造」)、⑤【環境・都市】分野(「資源の有効活用とごみの適正処理」「上水道等の整備」)で多い。一方で、満足度の低い施策は、③【産業・交流】分野(「良好な交通環境の整備」「雇用・就労環境の整備」「事業所立地と雇用創出の推進」)分野で多くみられる。

- ・満足度得点についてみると、松山市で実施している施策全 43 項目のうち、3.00(普通)以上のプラス評価の項目は 11 項目、マイナス評価の項目は 32 項目となっている。
- ・得点は、最高 3.33 から最低 2.57 の範囲(得点差 0.76)に分布しており、全項目の平均得点は、 2.90 と 3.00(普通)を下回り、マイナス評価となっている。
- ・満足度の高い施策は、上位から、1 位「文化遺産の継承(④-7)」(3.33)、2 位「資源の有効活用とごみの適正処理(⑤-7)」(3.20)、3 位「観光産業の振興(③-5)」(3.13)、4 位「多様な資源を活用した都市魅力の創造(③-4)」(3.11)、5 位「上水道等の整備(⑤-2)」(3.11)となっている。
- ・満足度の低い施策は、下位から、43 位「良好な交通環境の整備(③-6)」(2.57)、42 位「雇用・ 就労環境の整備(③-1)」(2.60)、41 位「事業所立地と雇用創出の推進(③-2)」(2.65)、40 位「居 住環境の整備(⑤-1)」(2.67)、39 位「社会保障制度の充実(①-7)」(2.68) となっている。

#### <重要度>

全項目で得点が普通(3.00)を上回り、全ての施策が重要視されている。

特に重要視されている施策は、②【安全・安心】分野(「災害発生時における体制の整備」「防災対策等の推進」「安定した水の供給」)、①【健康・福祉】分野(「子育て環境の充実と整備」「医療体制の整備」)で多い。

- ・重要度得点についてみると、松山市で実施している施策全 43 項目全てが 3.00 (普通) 以上であり、全ての項目が重要であると評価されている。そのうち、4.00 (やや重要) 以上の項目は、10 項目である。
- ・得点は、最高 4.18 から最低 3.30 の範囲 (得点差 0.88) に分布しており、全項目の平均得点は、 3.77 となっている。
- ・重要度の高い施策は、上位から、1 位「災害発生時における体制の整備(②-2」(4.18)、2 位「子育て環境の充実と整備(①-1)」(4.18)、3 位「防災対策等の推進(②-1)」(4.16)、4 位「安定した水の供給(②-7)」(4.16)、5 位「医療体制の整備(①-8)」(4.05) となっている。

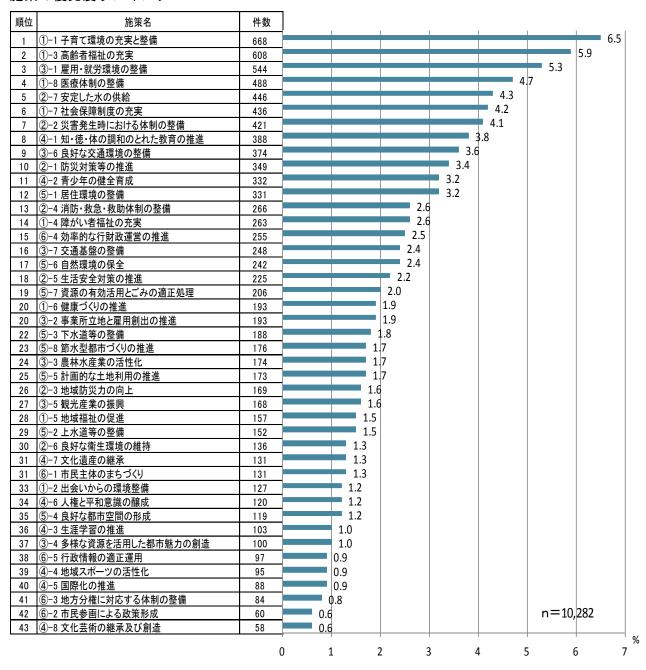
施策別満足度・重要度一覧表

+ 15 D	+5 th A	満足	満足度		重要度		
大項目 	施策名	順位	得点	順位	得点		
①【健康·福祉】	1 子育て環境の充実と整備	32	2.80	2	4.18		
	2 出会いからの環境整備		2.82	29	3.71		
	3 高齢者福祉の充実	31	2.80	12	3.95		
	4 障がい者福祉の充実	29	2.82	18	3.84		
	5 地域福祉の促進	24	2.87	35	3.50		
	6 健康づくりの推進	8	3.07	28	3.71		
	7 社会保障制度の充実	39	2.68	21	3.80		
	8 医療体制の整備	10	3.01	5	4.05		
②【安全·安心】	1 防災対策等の推進	30	2.81	3	4.16		
	2 災害発生時における体制の整備	27	2.84	1	4.18		
	3 地域防災力の向上	26	2.85	6	4.04		
	4 消防・救急・救助体制の整備	6	3.09	9	4.01		
	5 生活安全対策の推進	22	2.92	13	3.93		
	6 良好な衛生環境の維持	9	3.06	19	3.81		
	7 安定した水の供給	35	2.78	4	4.16		
③【産業・交流】	1 雇用・就労環境の整備	42	2.60	8	4.03		
	2 事業所立地と雇用創出の推進	41	2.65	15	3.87		
	3 農林水産業の活性化	34	2.78	30	3.70		
	4 多様な資源を活用した都市魅力の創造	4	3.11	36	3.50		
	5 観光産業の振興	3	3.13	26	3.75		
	6 良好な交通環境の整備	43	2.57	10	4.01		
	7 交通基盤の整備	37	2.73	16	3.85		
④【教育·文化】	1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進	25	2.87	11	3.99		
	2 青少年の健全育成	36	2.76	7	4.04		
	3 生涯学習の推進	16	2.98	38	3.40		
	4 地域スポーツの活性化	19	2.95	39	3.35		
	5 国際化の推進	18	2.95	42	3.32		
	6 人権と平和意識の醸成	17	2.97	37	3.49		
	7 文化遺産の継承	1	3.33	25	3.77		
	8 文化芸術の継承及び創造	7	3.07	40	3.35		
⑤【環境·都市】	1 居住環境の整備	40	2.67	24	3.78		
	2 上水道等の整備	5	3.11	22	3.79		
	3 下水道等の整備	14	2.98	23	3.78		
	4 良好な都市空間の形成	23	2.88	33	3.53		
	5 計画的な土地利用の推進	38	2.71	31	3.68		
	6 自然環境の保全	21	2.92	27	3.72		
	7 資源の有効活用とごみの適正処理	2	3.20	17	3.84		
@ [ d )/: /= -L ]	8 節水型都市づくりの推進	13	2.98	14	3.90		
⑥【自治·行政】	1 市民主体のまちづくり	12	2.99	43	3.30		
	2 市民参画による政策形成	11	3.00	41	3.33		
	3 地方分権に対応する体制の整備	20	2.93	34	3.51		
	4 効率的な行財政運営の推進	33	2.78	20	3.81		
	5 行政情報の適正運用	15	2.98	32	3.63		

### 2. 施策の優先度について

松山市の実施している施策のうち、市民が優先的に取り組むべきだと思う上位 10 位までの施策は、1 位「子育て環境の充実と整備(①-1)」が 6.5%で最も多く、以下 2 位「高齢者福祉の充実(①-3)」(5.9%)、3 位「雇用・就労環境の整備(③-1)」(5.3%)、4 位「医療体制の整備(①-8)」(4.7%)、5 位「安定した水の供給(②-7)」(4.3%)、6 位「社会保障制度の充実(①-7)」(4.2%)、7 位「災害発生時における体制の整備(②-2)」(4.1%)、8 位「知・徳・体の調和のとれた教育の推進(④-1)」(3.8%)、9 位「良好な交通環境の整備(③-6)」(3.6%)、10 位「防災対策等の推進(②-1)」(3.4%)の順となった。

#### 施策の優先度ランキング

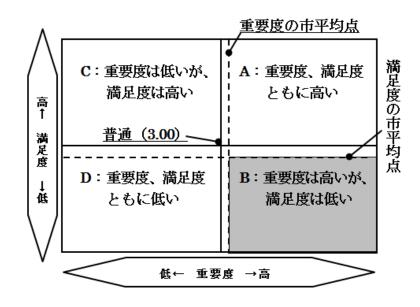


## 3. 重要度及び満足度、優先度の関係

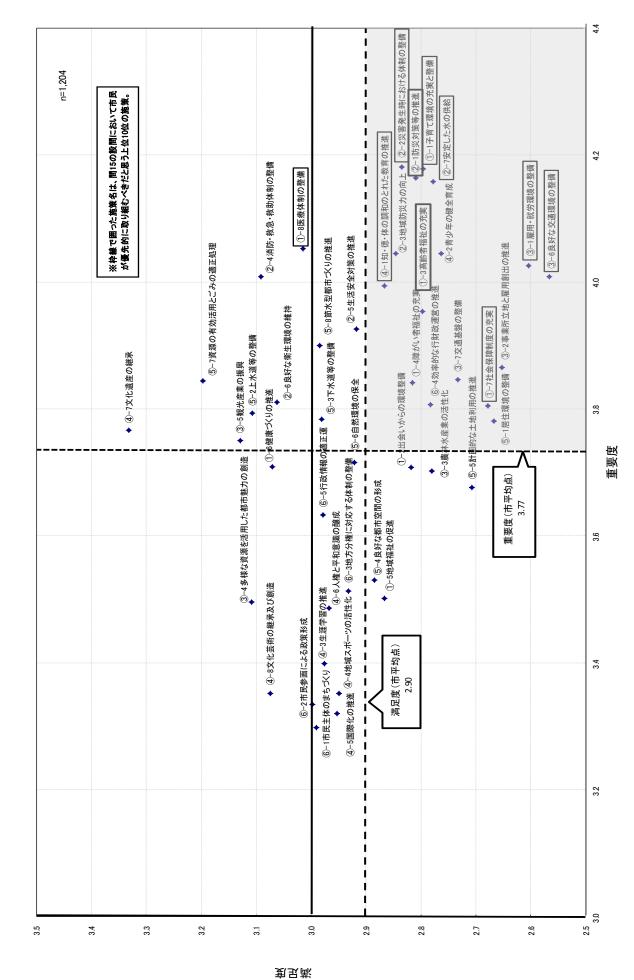
下図のとおり、第6次松山市総合計画 43 施策毎の満足度と重要度の評価は、「普通」(3.00) を基準に、「A:重要度、満足度ともに高い」、「B:重要度は高いが、満足度は低い」、「C:重要度は低いが、満足度は高い」、「D:重要度、満足度ともに低い」に整理できる。

この結果のうち、特に「B:重要度は高いが、満足度は低い」の領域に属する施策であり、かつ優先度ランキングの上位に位置する施策について、市民は、これまでの市の取組をもとに重要視するとともに、現状に対し満足度が低く、将来優先的に取り組むべき施策ととらえていると考えられる。

この施策に該当するものとして、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進(④-1)」、「災害発生時における体制の整備(②-2)」、「防災対策等の推進(②-1)」、「高齢者福祉の充実(①-3)」、「子育て環境の充実と整備(①-1)」、「安定した水の供給(②-7)」、「社会保障制度の充実(①-7)」、「雇用・就労環境の整備(③-1)」、「良好な交通環境の整備(③-6)」が挙げられる。



市民意識調査における各施策の満足度・重要度の分布と市民優先・重要度の分布



## 平成 26 年度 松山市 市民意識調査 報告書(概要版)

発 行:平成27年3月

編 集:松山市総合政策部企画政策課

所在地: 〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目 7-2

電 話: (089)948-6213 FAX: (089)934-1804

電子メール: kikaku@city.matsuyama.ehime.jp